

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493200107	事業の開始年月日	平成19年6月	
		指定年月日	平成19年6月	
法人名	社会福祉法人 幸済会			
事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里			
所在地	(〒241-0011) 横浜市旭区川島町1882-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成28年2月	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>協力診療所に基本的に每位、情報を送るなど日々の健康管理に力を入れております。また、受診に関しても基本的には施設職員で対応しており、早い対応やご家族様の負担軽減に繋がっているかと思っております。行事などでは、季節ごとの施設内行事の他にも、法人全体での行事（旅行やお祭りなど）も多く、種類は豊富です。目の前に大きな公園があり、散歩や外気欲など気分転換を図るのに最適な環境です。公園で行われるお夏祭りや地域のボランティアさんなどを通じ、少しずつ地域の方との交流も増えてきております。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年2月19日	評価機関 評価決定日	平成28年5月12日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所概要】</b> この事業所は、相鉄本線鶴ヶ峰駅から徒歩12分ほどの住宅地に位置し、道路を挟んだ向かい側には、近隣住民の憩いの場である緑豊かな栲谷公園がある。</p> <p><b>【理念や援助方針の実施】</b> 法人運営理念の「温かい心、冷たい頭、優れた技能」を業務遂行の心得としている。ユニットごとに職員が話し合って決めた援助方針を事務室に掲示し、常に念頭に置いてサービスを行っている。職員は、笑顔絶やさず丁寧な言葉遣いで利用者に語りかけ、意向や思いを汲み取りながらトイレ誘導や入浴支援を行い、利用者の好きなレクリエーションを勧めている。利用者は、職員からの声かけを受けて食事の配膳や下膳、居室の清掃などを手伝っている。地域のイベントへの参加、外出、一泊旅行などを実施して、「外部からの刺激を受け、社会性を保ちながら、事業所をこれまでの生活の延長の場として」暮らしている。</p> <p><b>【職員の資質向上と就業環境の改善】</b> 職員のスキルアップやサービスの向上に向けた試みとして、玄関に職員各自の月間目標を掲げている。職員同士で、それぞれの目標達成状況について助言や評価をし合い、サービスやマナーの向上につなげている。居室担当制をとり、担当する利用者について、他の職員の協力を得て、ケアプランの実施状況や利用者の心身状況などを把握して記録し、モニタリングやケアプランの見直しにおいて計画作成担当者をサポートしている。職員の資格取得について、研修受講を勤務扱いにして、受験費用を支援するなど、法人をあげてバックアップしている。昨年10月より非常勤職員の処遇改善を行い、勤務形態による格差の解消を図っている。</p> <p><b>【地域との連携】</b> 町内会に参加して、どんど焼き、夏祭りなどに参加している。事業所前の公園で行われる夏祭りなどには、職員が準備から後片付けまで協力している。管理者が、地区の消防団の一員として夜回りなどの活動に参加をして、事業所が地域から受け入れられるようになった。運営推進会議には、町内の老人会の方が出席し、敬老の日には、お祝いが届いている。近隣の保育園児が毎月来訪し、手遊びの相手やプレゼントをしてくれている。近隣の中学校の職業体験学習を受け入れ、生徒が来訪している。事業所の避難訓練には、近隣の住民や消防団員、運営推進会議のメンバーなどの参加がある。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里
ユニット名	芭蕉

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「慣れ親しんだ地域で、家族や地域との交流を通しながら、家庭的な雰囲気の中でゆっくり、一緒に楽しく過ごして頂く」という理念を中心にご利用者のペースで生活が行える様になってきております。	法人経営理念を基に事業所の運営方針を作成し、利用者が安心して楽しく安全に暮らせるように支援している。職員は、理念や方針についてそれぞれの思いや感じ方を話し合っ集約、ユニットごとに掲示し、意識づけをしながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、ボランティアさんによるコンサート、夜間想定の方非難訓練に参加して頂いたりしております。また、今年度は地域のお祭りの準備を行わせて頂いたり、職員が消防団にも入らせて頂きました	町内会行事のどんど焼き、夏祭りなどに参加している。中学生の職業体験を受け入れている。月1回近隣の保育園児が訪れ、利用者と遊びながら交流し、マンドリン演奏のボランティアも来訪している。管理者が地区の消防団に加入し夜回りなどの活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の体験学習の受け入れ、地域CP職員方と世界アルツハイマーデーにチラシを配布、CPでの認知症相談ブース開催など認知症理解の啓発をさせて頂きました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の行事や非常災害時の取り組みなどに良いアドバイスを頂き、実際に地域住民との合同の訓練に結びつけております。	運営推進会議は、2か月に1回開催している。参加者は利用者、地域包括支援センター職員、町内の老人会会員などである。事業所の現況や事故、外部評価結果について報告している。会議と同時に行った避難訓練などについて意見交換を行った。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所を通しての緊急のケースの受け入れや、実質単身扱いの方のケースなど、良くご相談を頂いております。	区の生活支援課職員が生活保護費受給者の面接に来た際に情報交換している。横浜市グループホーム連絡会、旭・瀬谷ブロック会議に年3回参加して意見交換している。毎年、世界アルツハイマーデーには駅前リーフレットを配布して認知症に対する啓発活動をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の理念を掲げ、勉強会を活用しながら、身体拘束ゼロへ取り組んでおります。玄関に関しては、ご家族様にご理解を頂きながら、施錠を行っております。	契約書に身体拘束をしない介護について明記し、契約時に説明している。法人内での勉強会では、身体拘束排除や高齢者虐待防止について研修を行い、職員に周知徹底している。玄関は安全確保のため、家族に説明したうえで施錠している。フロア入り口は施錠せず、利用者はエレベーターも自由に使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、勉強会を通じて虐待防止に向けた研修を行い、実践しております。ニュースなどで取り上げられるものについても周知をし、随時学ぶ機会を設けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通し学んでおりますが全ての職員には伝えきれていない現状があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、基本的に施設見学をして頂き、サービスや料金についての説明をさせて頂いております。その際に不安な点や分からない事を必ず伺い、その上で契約を通し、再度丁寧に説明する事を心掛けております。契約書・重要事項説明書の雛形も窓口に配置し、自由に目を通せる様にしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置を行っておりますが、なかなか活かしきれていない現状があります。毎年、外部評価時の家族アンケート結果を全家族に配布させて頂きました。	毎月のお便りで、事業所の行事予定、利用者の生活や健康状態、外部評価結果などの情報を提供し家族から意見をもらっている。備え付けの意見箱には、利用者が意見や要望を入れている。いただいた意見や苦情は、ユニット会議などで話し合い、運営やサービスに反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者からの意見や情報の発信は多くありますが、職員からの提案という部分では日々の申し送り時などが中心となっております。ただし、日常的に意見や相談しやすい環境は設けております。	管理者は、毎月の社員会議などで、事業所の運営や職員の異動などの情報を知らせている。日頃から職員との意思の疎通を図り、職員からの意見を聞いている。資格取得などは、法人がバックアップしている。居室担当制にして、利用者の状況やケアの注意点をきめ細かく把握してサービスやケアプランに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が直接個々との面談などは殆ど行っておりませんが、管理者が話す機会を多く持っております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修カリキュラムを中心に個々のスキルアップの機会を多く作って頂いております。一部の社員しか行っておりませんが、少しずつ外部研修も参加しており、今年度は2名の職員が介護研究発表を市と全国で行わせて頂いております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度は法人内のGHで交換研修を行っております。またネットワーク作りという部分では、地域包括開催の高齢者福祉入居施設連絡会やGH連絡会などに参加しております。GH連絡会では、ブロックの幹事を務めさせて頂き、他施設との連携強化に繋がっております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の入所前は、基本にご利用者様に中の雰囲気を感じて頂き、スムーズに入所出来る様に配慮しております。また、入所時のアセスメント等を通じ、不安の解消等に対応しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に、ご家族様のご意向などを必ず伺うように心がけております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者を中心に先ず、ご本人様に慣れて頂く様なケアを職員間に徹底させています。また医療との連携や歯科受診、など、今までの診療が途切れない様にも努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は行って頂き、出来ない事をお手伝いさせて頂くという事を心がけておりますが、未だご利用者様に行って頂ける部分があると感じています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や状態が優れない時などの連絡を通して情報の共有に努めております。信頼関係に関しては、築けている家族となかなか良いコミュニケーションが取れないご家族様もおられます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人宛に来た手紙などは、本人の側で読み上げたりしています。また、電話の利用に関しても職員が手伝いをしたりして、行える様にしています。施設からも毎月お便りを送っております。入所前の施設に遊びに行く事もございました。	職員が利用者の墓参りに同行するなどしている。利用者が以前入所していた施設のお祭りに招待されている。利用者に寂しそうな様子が見受けられた時には、家族に依頼をして、手紙を出してもらったり電話をかけてもらうことがある。年賀状や手紙を出す支援もしている。遠方に住んでいる家族と旅行を楽しんだ方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いやレクを通じてご利用者様同士の関係を支援しております。あまり、人と接するのが得意ではない方も、職員がお話の橋渡しをしたりしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから、ご連絡する事は殆どありませんが、ご相談などがある際は確りと対応させて頂いております。退所の際は、いつでもお気軽にお声掛け頂きたい旨をお伝えしております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当職員と計画作成担当者を中心にアセスメントを行い、意向の把握に努めている。ご本人様に意向が伺えない時は、職員・ご家族様で話し合いを行っております。	居室担当制にして、担当職員が利用者の様子を細かく把握して、サービスやケアプランに反映させている。利用者の日ごろの会話や行動などから汲み取った希望や思いなどは、個人記録や連絡ノートなどに記載して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集にて把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員と計画作成担当者を中心にアセスメントを行い、意向の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様、担当職員、計画作成担当者が中心となって行っておりますが、一部のご家族様とは書類でのやりとりとなる事もございます。	ケアプランは、利用者の状況や本人・家族の希望を把握して個別の長期・短期目標と具体的サービス内容を設定している。プランの実施記録や居室担当職員などの意見を基に、モニタリングを行い、評価表を作成している。プランの見直しは6か月ごと、利用者の状況に変化があれば随時実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有に関しては、連絡ノート・申し送り等で行えていると思います。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護認定の更新手続きや特養の申し込みの相談、支援を行っております。また、協力病院以外の通院や外出なども、多くは施設職員で対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方による音楽会や町内会によるお祭りや敬老の日のお祝い、地域の園児達の定期訪問などご利用者様を楽しませて下さっております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力病院が中心ですが、協力病院外はご本人様・ご家族様と相談して決めております。	協力医が月1回全員を往診している。看護師が毎週来訪して健康管理などを行っている。専門医の受診は、職員が支援している。歯科医は週1回往診している。利用者の状況や医療情報は、「医療情報身体・精神状況報告書」に記録し、医療機関などへの情報提供に役立てている。健康状態に問題があった場合は、随時医師にメール連絡をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護の他に、身体精神状況報告書というものを毎日診療所の看護士・医師向けにFAXしており、情報の共有とより適切な対応を受けられる様に支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	小まめな面会を心がけ、情報の収集に努めております。また、ムンテラに関しても、必ず参加をさせて頂き、早期の退院が可能となる様に努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の指針を提示し、ご理解を頂いております。またこの際に、終末期に向けた意向確認も取るようにしています。	「重度化した場合における対応に関する指針」を契約時に説明している。協力医とは24時間オンコール体制である。家族や本人に看取りの希望があれば、医師を交えて話し合っており、「急変時における対応についての支援同意書」を取り交わし、看取りを実施している。ケアに当たっては、看取りサービス計画書を作成して家族の同意を得て支援している。	利用者の重度化に備え、全職員が、医療関係者による看取りの心構えや基本的な知識についての研修を受けることを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2度全職員に救命講習を受講し、学んで頂いております。また、現在お一人おひとり緊急時の対応確認書を整備しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、3ヶ月おきに震災訓練を行っており、多くの職員が対応出来る様に取り組んでおります。	避難訓練は年に4回ほど行い、うち2回は夜間想定訓練を実施している。運営推進会議と併せて行い、会議の参加者の協力を得ている。地区の消防団員の参加もある。敷地内の倉庫に、飲料水、カンパン、紙おむつ、カセットコンロ、ボンベなど約3日分を収納し、備蓄リストで管理している。	大震災に備え、事務室や厨房、居室などに置かれている書棚や家具類、冷蔵庫などに転倒防止器具を設置することを望みます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年2回ある接遇研修にて、声掛けや対応の基本及び応用を全職員にて学んでいます。実践が不十分な職員には、その都度の説明と指導を行っております	法人の「サービスマナー5原則」をサービスの基本とし「倫理及び法令順守」の研修を行って、利用者の人格やプライバシーを尊重している。家族に利用者に関する話をする際には、事務所や居室などを使用している。排泄チェック表などは部屋の隅に置くなどしている。個人記録は、事務所内に施錠し保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などがあつた際は、管理者まで話が通るように、職員が口頭やメモで必ず残す様にしている。買い物なども、極力一緒に行動し、本人を選んで頂く様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力希望に沿った柔軟な対応を心掛けているが、受診や職員の人員配置の都合上、希望に沿えていない事もあります。入浴などは、本人の意思を優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際などは、おしゃれの支援を心掛けているが、施設内では基本的にその人が希望される身嗜みを尊重しており、決まった服になってしまう事も多いです。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いなどは行って頂いているものの、一部の方が中心なので、もっと多くの方に携わって頂く事が必要だと思います。年い数回、館内合同での食事・おやつ作りがあり、ご利用者様の参加しやすい環境作りを今後も整備していく必要があります。	献立と食材を専門業者に委託し、職員が調理している。職員は、利用者と同席して同じものを食べ、談笑したり介助したりしている。利用者は、食器を配ったり下膳などを手伝っている。個別対応で、ラーメンやアイスクリームなどを食べに行くこともある。晩酌やビールなどを楽しむ方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取記録に関しては毎日記録し、ご本人様にあった形態を提供しております。また、個別に補食なども提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助を要する方の口腔ケア確りと実施出ており、一部の方は歯科衛生士の方とも連携を図っております。自立の方の確認は不十分な事もあります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時の誘導の他に、その方が落ち着かない際のトイレ誘導など柔軟に対応しております。	職員は、利用者個々の排泄パターンを把握し、利用者の様子を見て声かけや誘導をしている。現在、排泄の完全自立は5名である。他の方は、トイレで座位をとって自力で排泄するよう支援している。全介助の方も4～5名いる。夜間は睡眠を優先し、定期的に見回って状況に応じて介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便困に関しては、きめ細かく職員が情報を共有しているが、下剤の調整がメインになってしまい、食事や運動による基本的な予防という点では不十分と思われる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴の曜日は設けず、行える時に声を掛け、その日の本人の気分を優先しております。ご利用者様から希望があった際は極力入浴できる様に調整しておりますが、介助が必要な方や本人の意向が聞けない方などは職員の都合で行う事もございます。	入浴は、原則として週2回で、曜日や時間は柔軟に対応している。その日の体調によりシャワー浴や清拭などに代えている。温風ヒーターを設置して寒い時期の温度管理をしている。利用者の好みの石鹸やシャンプーなどを使用している。柚子湯や菖蒲湯で季節を感じてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意向や疲労感に注意し、静養を促したりしております。また、夜間帯なども眠れない方には、リビングでお話をしながら温かい物を提供したりしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や目的などは確りと確認し、支援しているが薬の副作用という点では全ての薬について把握しているわけではありません。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いなど行える方には行って頂いております。気分転換に関しては、散歩や行事が中心となっております。施設内レクに関しても歌や塗り絵、体操など個々の好きなものに参加されております。嗜好品は個別に楽しまれております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望という点では、実施出来ない事が多いとおもいますが、事前に希望がある際は叶えられる様に調整しております。（買い物など）	天候が温暖になれば、散歩や買い物に出かけている。買い物などに行くことをケアプランに組み込み、個別に外出支援をしている利用者もいる。法人の他の事業所と合同で、年に2回一泊旅行を行っている。回転寿司やラーメン店などで外食したり、イチゴ狩りに行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方ですが、毎月授受を交わし、現金を個人で管理されている方もおります。買い物に行く時は、職員が全て行うのではなく、その方がレジの方と対応出来る様に品物を出して頂いたり、職員がお金を渡し、お支払いして頂く等の工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から電話の希望があった際は、掛けられる様に支援しております。手紙に関しては、書く事は少ないですが、届いた手紙を側で読み聞かせております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの部分に施錠箇所が無く、どこでも自由に入出入り出来る様になっております。季節感においては、その時々飾りを壁に張り付けたりしております。	窓が大きく明るいリビングは、加湿器で湿度を保っている。利用者はテレビを見たり、ソファで休んだりして思い思いにゆったりと過ごしている。利用者と職員が共同で作った季節の飾りや日めくりカレンダーを貼っている。廊下の壁に行事の写真が数多く掲示され、利用者が楽しんでいる様子がかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席等は、互いが不快にならない様に気を遣っております。また、ソファを好まれたり、テーブルを好まれる方など各々好きな場所で過ごされております。共用部分で一人になる所はございません。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に、処遇上危険と判断しない物は何でも持ち込んで頂いております。皆様、今までの馴染みのものなどを持ち込まれております。	居室は、換気装置、カーテンレール、クローゼットが常備されている。利用者は、防炎カーテン、空調設備、照明器具、ベッド、寝具テレビ、チェストなどの生活用品や家族の写真など馴染みのものを持ち込んで居心地の良い部屋にしている。表札の脇に居室担当者の写真を貼って家族にもわかるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	殆どの部分がバリアフリーになっており、各々が自由に生活しております。転倒などの事故予防の為、リビングなどの空間に障害となる物を少なくしたりしています。		

事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里
ユニット名	一茶

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	館内への掲示並びに職員間での援助方針の掘り下げを深く行うことで、入居者様のペースで生活して頂けるよう援助出来るようになってきております		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的という部分では未だ多くありませんが、地域の祭りに参加したり片付けのお手伝い、ボランティアさんによるコンサート、夜間想定の特設訓練に参加して頂いたりしております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の体験学習の受け入れの他に、地域包括支援センターの職員さん方と世界アルツハイマーデーにチラシを配布したりして、認知症理解の啓発をさせて頂きました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の行事や非常災害時の取り組みなどに良いアドバイスを頂き、実際に地域住民の方々との合同の訓練に結びつけております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所を通しての緊急のケースの受け入れや、実質単身扱いの方のケースなど、良くご相談を頂いております。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の理念を掲げ、勉強会を活用しながら、身体拘束ゼロへ取り組んでおります。玄関に関しては、ご家族様にご理解を頂きながら、施錠を行っております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には毎年、勉強会を通じて虐待防止に向けた研修を行い、実践しております。又、ニュース関連をインターネットより取り出し、掲示しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通し学んでおりますが全ての職員には伝えきれていない現状があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、基本的に施設見学をして頂き、サービスや料金についての説明をさせて頂いております。その際に、不安な点や分からない事を必ず伺い、その上で契約を通し、再度丁寧に説明する事を心掛けております。契約書・重要事項説明書の雛形も窓口に配置し、自由に目を通せる様にしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置を行っておりますが、なかなか活かさきれていない現状があります。毎年、外部評価時の家族アンケート結果を全家族に配布させて頂きました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者からの意見や情報の発信は多くありますが、職員からの提案という部分では日々の申し送りが中心となっておりますが、昨年（6月）より月1で社員会議を始め、意見の共有を行っております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が直接個々との面談などは殆ど行えておりませんが、管理者が話す機会を多く持っております（常勤・契約社員との話し合いの場を設けております）。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修カリキュラムを中心に個々のスキルアップの機会を多く作って頂いております。H26年度より、介護福祉士国家試験対策（筆記・実技）を取り入れ、介護福祉士合格者の育成に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度は他GHで交換研修を行っております。またネットワーク作りという部分では、地域包括開催の高齢者福祉入居施設連絡会やGH連絡会などに参加しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の入所前は、基本のご利用者様に中の雰囲気を感じて頂き、スムーズに入所出来る様に配慮しております。また、入所時のアセスメント等を通じ、不安の解消等に対応しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に、ご家族様のご意向などを必ず伺うように心がけております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者を中心に先ず、ご本人様に慣れて頂く様なケアを職員間に徹底させています。また医療との連携や歯科受診、など、今までの診療が途切れない様にも努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は行って頂き、出来ない事をお手伝いさせて頂くという事を心がけております。多くのご利用者様が持てる力を発揮できる様に努めております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や状態が優れない時などの連絡を通して情報の共有に努めております。行事の際など共に参加して頂き、家族との時間を大切にしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月お手紙にて、ご家族様にご様子を報告しております。来た手紙に関しては、一緒に読んだりする事を心掛けております。また以前の施設から行事のお誘いがある方などは交流を大切にしております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活での場面やお手伝い、レクを通じてご利用者様同士の関係を支援しております。あまり、人と接するのが得意ではない方も、職員がお話の橋渡しをしたりしております（空間配慮）。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからご連絡する事は殆どありませんが、ご相談などがある際は確りと対応させて頂いております。また、長期入院などで退所された方に関しても行ける範囲で面会に行かせて頂き、ご様子を観させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当職員と計画作成担当者を中心にアセスメントを行い、意向の把握に努めております。ご本人様に意向が伺えない時は、職員・ご家族様で話し合いを行っております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集にて把握に努めております。また入居されてから、ご本人との日々の会話の中から、聴く機会もあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員と計画作成担当者を中心にアセスメントを行い、意向の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様、担当職員、計画作成担当者が中心となって行っております。またアセスメント作成やモニタリングはほぼ全職員に実施してもらい、職員の意見も反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有に関しては、連絡ノート・申し送り等で行っていると思います。最近では、申し送りの他に午前・午後の小ミーティングでの情報共有も行っております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護認定の更新手続きや特養の申し込みの相談、支援を行っております。また、協力病院以外の通院や外出なども、多くは施設職員で対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方による音楽会や町内会によるお祭りや敬老の日のお祝い、地域の園児達の定期訪問などご利用者様を楽しませて下さっております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力病院が中心ですが、協力病院外はご本人様・ご家族様と相談して決めております。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護の他に、身体精神状況報告書というものを毎日診療所の看護師・医師向けにメールしており、情報の共有とより適切な対応を受けられる様に支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	小まめな面会を心がけ、情報の収集に努めております。また、ムンテラに関しても、必ず参加をさせて頂き、早期の退院が可能となる様に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の指針を提示し、ご理解を頂いております。またこの際に、終末期に向けた指針もお伝えしております。書面への記入もお願いしております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2度全職員に救命講習を受講し、学んで頂き、事務所内には緊急時の対応を掲示しております。また現場での訓練に活用できるように、昨年人形の購入を行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、3ヶ月おきに震災訓練を行っており、多くの職員が対応出来る様に取り組んでおります(備蓄の管理・地域消防隊の参加)		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年2回ある接遇研修にて、声掛けや対応の基本及び応用を全職員にて学んでおります。実践が不十分な職員には、その都度の説明と指導を行っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などがあった際は、管理者まで話を通るように、職員が口頭やメモで必ず残す様にしております。買い物なども、極力一緒に行動し、本人に選んで頂く様に支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	極力希望に沿った柔軟な対応を心掛けていますが、受診や職員の人員配置の都合上、希望に沿えていない事もあります。入浴などは、本人の意思を優先して対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際などは、おしゃれの支援を心掛けていますが、施設内では基本的にその人が希望される身嗜みを尊重しており、決まった服になってしまう事も多く見られます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	多くの利用者様に配膳や下膳、片付け等(洗う・拭く)は行って頂いております。調理に関しては極一部の方のみ行っております。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取記録に関しては毎日記録し、ご本人様にあった形態（刻み、ミキサー、お粥、トロミ、プリンなどの補食）を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助を要する方の口腔ケアは確りと実施できており、一部の方は歯科衛生士の方とも連携を図っております。自立の方には声掛け等行っております（一部入居者様、夜間義歯お預かりし洗浄しております）。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時の誘導の他に、その方が落ち着かない際のトイレ誘導など柔軟に対応しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や散歩など運動の機会を増やし便秘予防に心掛けております。便困に関しては、きめ細かく職員が情報を共有し、便困時には下剤での対応を行っております（また水分強化）。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴の曜日は設けず、行える時に声を掛け、その日の本人の気分を優先しております。ご利用者様から希望があった際は極力入浴できる様に調整しておりますが、介助が必要な方や本人の意向が聞けない方などは職員の都合で行う事もございます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意向や疲労感に注意し、静養を促したりしております。また入床前に晩酌・水分・おやつを召し上がられてから休まれております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や目的などは確りと確認し、支援しているが薬の副作用という点では全ての薬について把握しているわけではありません。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほとんどの利用者様には、お手伝いなどの役割分担が出来ております。気分転換に関しては、散歩や行事が中心となっております。施設内レクに関しても歌やカードゲーム、体操など個々の好きなものに参加されております。一部の方は嗜好品（お酒、たばこ）は個別に毎日、楽しまれております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望という点では、実施出来ない事が多いとおもいますが、事前に希望がある際は叶えられる様に調整しております。（買い物、補聴器Mデなど）		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方ですが、毎月授受を交わし、現金を個人で管理されている方もおります。買い物に行く時は、職員が全て行うのではなく、その方がレジの方と対応出来る様に品物を出して頂いたり、職員がお金を渡し、お支払いして頂く等の工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から電話の希望があった際は、掛けられる様に支援しております。手紙に関しては、書く事は少ないですが、届いた手紙を側で読み聞かせております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の掃除（居室・トイレ・リビング等）を心掛けております。殆どの部分に施錠箇所が無く、どこでも自由に入出入り出来るようになっております。季節感においては、利用者様と一緒に作成した物を飾りつけしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席等は、互いが不快にならない様に気を遣っております。また、ソファを好まれたり、テーブルを好まれる方など各々好きな場所で過ごされております。共用部分で一人になる所はございません。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に、処遇上危険と判断しない物は何でも持ち込んで頂いております。皆様、今までの馴染みの物などを持ち込まれて変わらない雰囲気作りに努めております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	殆どの部分がバリアフリーになっており、各々が自由に生活しております。転倒などの事故予防の為、リビングなどの空間に障害となる物を少なくしたりしています。		

目標達成計画 (H28. 2外部評価指摘事項)

事業所名 かわしまの里

作成日 H28年5月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	訓練は、定期的を実施しているも、大きな揺れに備えた転倒防止器具が、未配置の部分がある。	館内共用部及びご利用者様の居室の点検を行い、大地震に備えた転倒防止器具を配置する。	①共用部に関しては、優先順位を決め、配置できる部分から配置していく（冷蔵庫/事務所書棚に関しては、配置済み） ②各居室に関しても、再度点検（5月中）を行い、設置が望ましい箇所に関しては、ご本人様・ご家族様と相談し、設置をしていく。	H28. 5～28. 7
2	12	看取りの勉強会は、実施しているも、職員の間入れ替わりや勤務の関係で、受けられない者もいる。また、医療関係者による講義でない時もある。	全職員が看取りの勉強会に参加でき、基本的な知識や心構えを持ち合わせている様になる。	28年度の看取りの勉強会を①6/17 ②9/2の日程で予定。講義の内容は未定だが、医療従事者にも入って頂く様に調整していく。	H28. 5～28. 10

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。